

『夢が叶った！』10日間

勝又 飛鳥・大翔

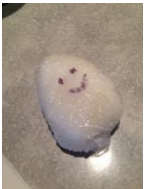
何と素晴らしい10日間だったことでしょう！夢のような…いや、それは思い続けていた『夢が叶った』旅、と言える10日間でした。

我が家とカラマズーに縁が出来たのは、昨年の沼津市・カラマズー市姉妹都市提携50周年で来沼したジャズメンバーの一人の青年を受け入れたことがきっかけでした。我が家にやってきた彼は、いつでも笑顔で明るく、それでいて、さりげなく家族を気遣い、その時その時を十二分に楽しみながら、私たちをも大いに楽しませてくれました。そんな彼にもう一度会いたい！彼を育てた地を一度見てみたい！そう思ったのが、応募の理由でした。それから1年。こんなに早くこの夢が叶うとは思ってもみませんでした。沼津駅から出発し、セントレアまで3時間。飛行機で12時間。さらにバスに揺られて2時間。カラマズーの地に降り立った時には、すでにもう胸一杯でした。



私たち親子を受け入れてくれたのは、ちょうど私の両親とほぼ同世代の御夫婦でした。ちょっぴりシャイなお父さんと優しく料理上手なお母さん。私たちを本当の娘と孫のようにもてなしてくれました。「いろいろなアメリカを見せたいから」と、毎朝違ったメニューの朝ごはんを食べさせてくれたお母さん。タイトなスケジュールに少し疲れた顔の息子を見ると、私が教えた“おにぎり”を作って、「これを食べると元気になるわ！」と言ってくれた時には、私まで元気になりました。

「Let's go!」ではなく、「What's up!」と、本場の英語で私たちを急かしながら、毎日送迎してくれたお父さん。帰ると息子の願いを聞いて、いつも卓球の相手をしてくれました。「お・も・て・な・し」の言葉は決して日本だけのものではなく、相手を想う気持ちは同じなんだと実感しました。



10日間の間には、カラマズーだけでなく、様々なアトラクションや観光、イベントが用意され、本当に充実した毎日でした。もちろん全てが初めてだらけ。ただひたすら続くともろこし畑の間をバスで走って行くだけでもワクワクして、何枚も写真を撮りました。中でも、Saugatuckでのバギー体験は、ジェットコースターに乗っているようで、息子も大興奮でした。活動によっては、それぞれのホスト家族も参加していて、アメリカにもママ友（?!）が出来たことは、思わぬ収穫でした。



今回の訪問団には12人の高校生が参加していました。さすが！選抜されて来たメンバーだけに、自分からチャレンジする気持ちと明るさ、柔軟さには感心しました。「英語が通じない…」と、落ち込みながらも本場の英語と向き合えたことは、何にも代えがたい経験と財産になったことでしょう。歳が倍も違うおばさんとも、そして息子とも垣根を作らず、一緒に楽しむことができたことは、私自身にとっても大きな刺激になり、息子にとっては大きな心の拠り所になったようでした。



そして、何といっても忘れられない一番の思い出は、昨年我が家にやってきた彼“アーロン”との再会でした。彼は私たちの予定に合わせて会いに来てくれ、自分のホームタウンを案内してくれました。ブルーベリー狩りにミシガン湖での水遊び、自宅での手作りピザのホームパーティ、湖に沈む夕日と花火…。本当に本当に夢のような一日でした。

アメリカは大きな大きな国でした。家も土地も、道も畑も、ジュースもポップコーンも、人間もそしてその心も…。英語はほとんどわからない息子も、帰る頃にはそんなことはあんまり関係なくなっていました。大きな大きなアメリカが息子を大きく包んでくれているようでした。彼は日本に帰ってからも笑顔でいることが多くなり、成長を実感します。私たち親子にこんな機会と経験の場を提供し、サポートしてくれた皆さんに心から感謝しています。私たちには、カラマズーに家族と友人ができました。息子は言います。「また絶対にアメリカに行く！」もちろん！私も！！いつか、また必ず…家族と友人との再会を果たしたいと思います。See you, again.

